

佛蘭西書巡覧 21

平山 弓月

確かに時間はたつて行くのであるが、ここで見逃してならないのはプルーストにとってそれが時間の経過でなくて過去になることで肉體と物理の保證を刻々に失つて行く現實の堆積、或は連続であるといふことである。 「プルーストの小説」 吉田健一



四月になりました。新しい学年が始まりました。何か新たな挑戦を始めてみませんか。そこで今回は、ずっしりと読み応えのある、長編小説をご紹介します。読書の豊かさについてお話ししましょう。

「二十世紀の西欧文学で、栄光の絶頂に上りつめた作家」(鈴木道彦)との賛辞を捧げられている、マルセル・プルースト *Marcel Proust* (1871-1922) の『失われた時を求めて』 *À la recherche du temps perdu* (1913-1927) 全七巻を、ぜひにでも手に取ってみてください。

プルーストは、裕福で知的な家庭に生まれたのですが、幼少期に喘息に襲われ、そう長いとは言えない生涯この病に苦しめられたのです。文学芸術の途に進んだのも、この病ゆえであったと思われれます。

いくつかの習作や翻訳を出版したのち、両親の死後、かなり神経質であったのでしょうか、一切の騒音を遮断すべくコルクを張りつめた部屋で、喘息の発作に耐え忍びながら、大作の執筆に没頭します。

Et tout d'un coup le souvenir m'est apparu. Ce goût c'était celui du petit morceau de madelaine que le dimanche matin à Combray (parce que ce jour-là je ne sortais pas avant l'heure de la messe), quand j'allais lui dire bonjour dans sa chambre, ma tante Léonie m'offrirait après avoir trempé dans son infusion de thé ou de tilleul. La vue de la petite madelaine ne m'avait rien rappelé avant que je n'eusse goûté :.....

そのとき一気に、思い出があらわれた。この味、それは昔コンブレイで日曜の朝(それというも日曜日には、ミサの時間まで外出しなかったからだ)、レオニ叔母の部屋に行っておはようございますを言うと、叔母が紅茶か菩提樹のお茶に浸してさし出してくれたマドレーヌのかけらの味だった。プット・マドレーヌは、それを眺めるだけで味わってみたいうちは、これまで何ひとつ私に思い出させはしなかったのだ。(鈴木道彦訳)

ここに掲げたのは、二十世紀文学にあって最も有名であり、全巻を通じての主要なテーマである、

マドレーヌによって喚起される「無意識的記憶」の挿話が語られる部分です。第一巻「スワン家の方へ」 *Du côté de chez Swann* 第一部「コンブレイ」 *Combray* で語られます。長編小説であるからと言って、入り口で逡巡しないでください。一巻一巻と読み進めて行かれれば、いつしか作品世界に誘われてゆくことでしょう。

第一巻では、全体の方向付けがなされているといえるでしょう。貴族社会とブルジョワ社会、ユダヤ世界とカトリック世界、文学、そして同性愛。これらは、時間を超え、場所を超え、現実と想像の垣根を超えて次々と語られ、『失われた時を求めて』の世界を提示してゆくのです。一九世紀から二十世紀にかけての、フランス社会がさまざまに描き出されているのです。その点から、この時期のフランス文化を識る、またとない資料をも暗示してくれるのです。

作品世界の豊饒さは、改めて言及しなくても広く知られていることですが、文章が持つ魅力にも目を向けてみてください。

もう一度、引用しましたフランス語文に戻って、音読してみてください。一つの文章の長さにもかかわらず、プルーストのフランス語は、リズムに乗って、ずらずらと「音」となって、心地よく音読できるのではないのでしょうか。知り合いのプルースト研究者が、この作品を一定量音読するのを日課にしていると言っていました。そうして繰り返し幾度も、この大作を読んでいるとも。

繰り返しの読書に「耐えられる」作品は、そう多くはありません。『失われた時を求めて』フランス装十六冊のページを繰って、ボロボロになるまで読み返し、さらに読み続けたいと思い、堅牢な装丁をほどこした市井の、一フランス人読書家の話を、吉田健一が書いています。作品にとっても、読書家にとっても、これほど幸せな出会いはないと言い切れるでしょう。

(この稿を成すに当たり、鈴木道彦個人訳決定版を参照しました)

ひらやま ゆづき(教授・フランス語・フランス文化論)